

第 10 回臓器移植に係る情報システム作業班 議事要旨

1. 日時

令和 8 年 3 月 24 日（火）書面開催

2. 構成員

○意見提出者：

小尾 高史（班長）、佐藤 一郎、徳武 康雄

○回答者：

日本臓器移植ネットワーク（JOT）

3. 議題

- （1）臍臓選択基準改正（コンポジットグラフト対応）に伴う E-VAS 検証について（検証結果）
- （2）腎臓及び小腸選択基準改正（待機 inactive 対応）に伴う E-VAS 検証について（検証結果）
- （3）小腸選択基準改正（小児優先対応）に伴う E-VAS 検証について（検証結果）

4. 結果

臍臓、腎臓、小腸選択基準改正に伴う E-VAS 改修の検証結果について、意見交換の後、了承された。

5. 構成員からのご意見およびこれに対する回答

小尾構成員：

- 議事録を見ると、コンポジットグラフト術式の点数付けが例外的な処理に見える。結合テストで発生した条件文の漏れは、この例外的処理と関係があるのか。もし関係がある場合、今後、条件が複雑化した際に同様の事象が再発する可能性があるのか。

→JOT 回答：今回のバグは選択基準には影響しなかったものの、術式「コンポジットグラフト」に関する例外的な処理が原因で発生した。処理が今後さらに複雑化すれば、同様の不具合が再発する可能性が高いため、基幹システム再構築時の重要な申し送り事項として記録する。

佐藤構成員：

- 検証結果の報告を読む限り、検証において問題がなかったと判断する。

徳武構成員：

- 議事録の解釈として、「開発会社が作成した結合／総合テスト項目を JOT にて事前確認し不十分であった部分は、開発会社に追加を依頼し十分性を確認した」ということか。
→JOT 回答：ご指摘の通りであるため文言を訂正した。
- 「別の観点で検証した」という表現は、観点が異なるという意味なのか、それとも独立した検証という意味なのか。
→JOT 回答：JOT 受入試験は、開発会社とは異なる観点で、かつ独立して検証を行っている。開発会社は網羅性を重視し、個別に作成したテストデータで確認するのに対し、JOT は実データを用いてドナーパターンテスト、動的試験、BRMS と Excel の比較テストを実施している。そのため、両者は目的・着眼点が異なる独立した検証として位置づけられる。
- 「年齢 2 パターン（17 歳、20 歳）」とあるが、境界値テストであれば、（小腸の場合）17 歳と 18 歳ではないか表現の揺らぎがあるため、統一すべき。
→JOT 回答：ドナー年齢に関する境界値テスト（MECE）は開発会社の試験で確認できているため、ここでは実施していない。ご指摘の通り、年齢が実際のテスト内容と異なっているため、訂正した。
- 要件 2 についての確認（テスト）は、実施されたのか。
→JOT 回答：実施している。JOT 受入試験で承諾時点の移植希望者情報（断面データ）を都度取得しているが、その際に確認している。
- 確認事項などが未確認、未決定のままになっていないか、議事録を追いかけるのでは非効率。課題管理表などがあるので、課題は残っていないを明記すべき。
→JOT 回答：確認事項や懸念事項については全て FIX しているため、その旨を資料①に追記した。
- 今回改修が終了した段階で振り返りを行い今後を活かす整理と共有をお願いしたい。
→JOT 回答：良かった点としては、タイトなスケジュールの中で学会や開発会社と調整を行い、コンポジット／inactive／小児対応を一括リリースする事が出来たおかげで開発工期を短縮でき、年度内に開発を完遂できた点。反省点は特段ない。
- 判定理由に、非機能要件はないと記されているが、本当はないのか。通常非機能要件とされる内容が機能要件に含まれていないか確認したい。
→JOT 回答：本改修においてはデータ移行・業務フロー・セキュリティーには影響しないため非機能要件は無かったと考えている。また、性能についても改修内容から判断した結果、性能には影響するものではないため、同じく非機能要件は無かったと考えている。